

本番中の緊急時対応について

2018/06/29 文責:岸本恵和

0. はじめに

公演本番中に地震、その他事故などが起きた場合の対処をまとめました。大事なのでどうぞ熟読ください。

継続…基本的に舞監のクラップが入るまでは役者は演技を、音照はオペをつづけてください。

中断…舞監のクラップでステージを止めます。のちに再開する可能性があります。

再開…舞監のクラップで中断したステージを再開します。どのシーンから再開するかは演出判断で、チーフや役者、三役に周知します。

中止…中断したステージを再開しないこと。

基本的にすべて舞監の判断で動きます。

舞監と場整は連絡を取り合ってお客さんへの状況説明、指示を出してください。

(不用意にお客さんの不安を煽らないよう注意してください。)

前準備:受付に**救急箱**を用意し、場整やブース陣や中で観る団員は懐中電灯を保持する
また、場整やブース陣や中で観る団員は**消火器**の位置をあらかじめ確認しておく

1. 地震

揺れの大きさによって2パターンの対応に分けます。

A. 全員が感知できない程度の揺れ

→基本的に**継続**する。ただし、以下の場合は**中断**の可能性もある。

- ①役者、ブースにいる人間に大きなけががある
- ②舞台・小道具・客席等に破損がある
- ③音照機材に落下・転倒の危険性がある、または正常に動作しない
- ④二次災害の恐れがある(余震、火災等)

B. 全員が感知できる揺れ

→舞監が**中断**し、揺れが収まるのを待つ

→照明チーフが客電、ホール電を付ける(回路の切断に寄り照明がつかない場合、**電源をすべて落とし懐中電灯やスマホの明かりをつける**)

- 小屋内が危険だと舞監が判断したら、舞監と場整が**お客さんを外に誘導する**。怪我人の確認は外で行い、受付チーフが怪我の対処をするが、動かすと危険な怪我の場合は小屋内でできる限りの応急処置を行う。(西部講堂を出てすぐ付近は、屋根から瓦が落ちてくる可能性が高いため、**なるべく広場側に避難する**。)
- 同時にブース陣、役者も外に避難させる。
- この時、照明チーフは**主幹**を下げに行く。照明がつかなくなった場合も主幹は落ちてない可能性もあるので必ず確認する。主幹を下げ次第速やかに避難する。

C. 緊急地震速報が流れた場合

- 緊急地震速報が鳴った場合、舞監が**中断**をし小屋内にいる人は自分の身を守る。
- 以降はAorBと同じ流れとなる。

舞監の判断により、A①～④の条件を一つでも満たす場合、**中止**します。ただし、①については役者、音照オペ以外の人間に大きなけががある場合は中断して手当てをしたのちに再開する可能性もあります。すべて満たさない(安全だと判断できる)場合、**再開**します。

2. キャッシュバックについて

以下の場合**公演会計**の判断で全額キャッシュバックを行います。

- ・ステージが中止した場合
- ・お客さんが途中で退場した時の原因が企画側の対策不足にある場合